

創造学報

Toyohashi Sozo University News



地域・職業教育・人間教育

2026.夏号
VOL.54



- P1——特集1 地域の健康を支える大学**
横浜市スポーツ医科学センターと連携協定
大学院健康研究科長の後藤勝正教授と大学院生に聞く
- P3——特集2 地域の未来を創造する大学**
豊橋創造大学開学30周年を迎えて／活躍する同窓生
市民大学トラム公開講座／カラダ喜ぶ健康講座
- P5——**学生と食改さんによるSDGsワークショップと調理実習
SO GOOD LIFEフェア
- P6——**SOZOふれあいフェス開催／ストリームフェス2026に出展
- P7——**学生たちが選んだベストティーチャー！
がましんSDGs私募債「愛郷のこころ」

豊橋創造大学大学院
健康科学研究科 院生



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

特集 1 地域の健康を支える大学

保健医療学部理学療法学科

“最新の知見を備えた理学療法士の育成を目指し、横浜市スポーツ医科学センターと連携協定を締結”

豊橋創造大学保健医療学部理学療法学科は、横浜市スポーツ医科学センター（横浜市）と連携協定を締結しました。

調印式は3月30日、横浜市スポーツ医科学センターで行われ、伊藤晴康学長と青木治人センター長が協定書を交わし、スポーツ理学療法の分野における教育・研究・社会貢献を目的に協力することを取り決めました。

横浜市スポーツ医科学センター（指定管理者 公益財団法人横浜市スポーツ

協会）は、1998年に、横浜市民の健康づくりの推進、スポーツ活動の振興等を目的に設立されたスポーツ医科学センターです。リハビリテーション科には、高度な専門性を有する理学療法士が多数在籍し、スポーツ理学療法の知見に基づいた評価、治療を一体的に提供しています。

本学は、プロアスリートの支援実績をもつ同センターとの交流を通じ、最新の知見を備えた理学療法士の育成を目指し、一般市民の健康増進にも還元していきます。



横浜市スポーツ医科学センター



連携協力協定書締結の様子

後藤勝正教授に聞く

“横浜市スポーツ医科学センターとの連携によって本学が目指すもの”

横浜市は企業スポーツが盛んな地域で、市民も健康のために運動しようという時代背景から横浜市スポーツ医科学センターは誕生しました。目標達成のために走りたいが膝が痛いという人に対しては、治療と合わせて、痛みを発生させない体の動かし方や体の使い方を一緒に考える仕組みを持っています。

スポーツとケガは表裏一体なので「スポーツのまち」豊橋にも、こうした仕組みが必要だと考えています。

安心して運動でき、好きなことをできるだけ長くできるような環境整備が重要で、横浜市スポーツ医科学センターの仕組み

は非常に参考になります。

理学療法士養成機関である本学としては、理学療法士の役割や、ケガをしてしまった人たちをいかに現場に戻すかということも理学療法士の仕事ということも、地域の人たちに広く知っていただきたい。ケガや病気で病院や施設にいる人だけでなく、街の中で自ら健康になろうと思っている人たちを支えたい。これを実現するために同センターと提携しました。これを機に、積極的な健康づくりと健康長寿を目指す人々を支えるための人材育成と研究開発をより一層推進していきます。



後藤勝正研究科長と大学院生

豊橋創造大学看護

卒業生の継続教育支援にも取り組む

豊橋創造大学看護学研修センターは、東三河をはじめとする地域の看護の質向上を目的に、2024年4月1日に開設されました。研修センターの活動には、保健医療学部看護学科の教員も参加し、看護実践に関わる研修会、研究支援事業、看護に関する講演会のほか、卒業生の継続教育支援にも取り組んでいます。

看護学科の蒔田寛子学科長は、看護学科の卒業生について「地域の看護職が求められる役割を十分に果たせるよう、卒業後も最新の情報やスキルを学べる機会を提供し、生涯にわたって専門性を高め、地域に貢献できることを目指しています」と積極的に活動しています。



蒔田寛子学科長

豊橋創造大学大学院健康科学研究科

“「健康科学」の指導的立場で活躍できる人材を育成”

健康科学分野における指導的人材の育成と先端研究を展開
—後藤勝正研究科長

本研究科の名称でもある「健康科学」は、従来の障害回復や介護等医療支援の域を越えた幅広い健康生活支援のための研究を包括した学術領域を表しています。指導的人材が不足しており、こうした人材の育成が必要とされている分野です。

そのため、本研究科は、リハビリテーション学や看護学とそれらに関連する多彩な領域において優れた研究業績を有する教授陣、教育研究設備を擁し、これからの「健康科学」分野における指導的人材育成を行います。国際的な研究の展開が可能な研究環境も整備されています。

人材を育成することは、未来を作ることです。学部における人材育成とは違いますが、大学院として健康地域の健康を支える人々を育て、健康で暮らすために必要な研究開発をしていくことが本研究科のミッションと考えています。保健医療に関連する専門資格を有する人はもちろん、健康科学分野の専門的知識の修得や研究開発を志す人にも広く門戸を開放しています。



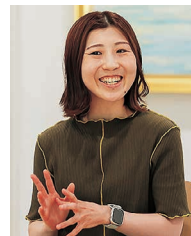
INTERVIEW 大学院生に聞きました



長谷川 稚奈さん
(23歳)
一宮市出身
2025年4月入学
岐阜医療科学大学卒
臨床検査技師

筋肉研究の興味が尽きず大学院へ

大学時代に、宇宙での状態と寝たきり状態での筋肉と血圧の変化が面白いと思い、もっと筋肉の萎縮について学びたくて、大学の教授に後藤勝正教授を紹介してもらい、豊橋創造大の大学院に進学しました。大学院の研究設備が充実していることにもびっくり。自分が取り組みたい筋肉研究に適した環境が整っていました。授業はディスカッションが多く、プレゼンなどで自分の意見を述べる機会が増えました。1年生の時は講義中心でしたが、2年生では自分の研究が増え、先生が背中を押してくれたこともあり、アメリカで開催された宇宙と重力医学関連の学会で発表することもできました。大学院での経験は、自分の可能性を大きく広げてくれています。今後は、臨床現場での実績を積み、それを生かして教育に携わり、いずれは大学の教員になるために奮闘中です。



高橋実菜さん
(33歳)
豊橋市出身
2025年4月入学
豊橋創造大学保健医療学部看護学科卒
看護師

長期履修制度を使って3年間で卒業!

祖父母のところにきていた訪問看護師の姿を見てあこがれて看護師になりました。本学の看護学科4期生です。卒業後は、豊橋医療センターに勤めていましたが、10年目のときに、スキルアップしたいと思い、退職して大学院に進学しました。夫の理解と応援が力になりました。大学院では、臨床でも経験したことをもとに「成人の軽傷患者が救急車を呼ぶ理由」について学術的に考え、研究を進めています。大学院1年目に出産し、子育てもしたかったので、長期履修制度を使って、3年間で卒業する計画にしました。先生たちから手厚いフォローを受け、じっくり学べるとても良い環境です。大学教員を目指しているのでしっかり学んでいきたいです。30代での大学院進学には不安もありましたが、一歩踏み出して本当に良かったと思っています。

学研修センターから

2026年度 第1回「家族支援の事例研修会」

今年度第1回の「家族支援の事例研修会」を6月13日、本学で開催しました。市内外から看護師や介護支援専門員など12人が参加し、職種を越えた検討会に臨みました。グループワークに先立ち、本学の保健医療学部看護学科の山口直己准教授が、日本で増えつつある家族形態と家族の問題点を挙げ、看護にかかわる

家族の対処力の低下について説明。その上で、「事例検討は、実際の患者や家族とのかかわりの中で困難を感じた時に支援の糸口を見つけるための有効な方法である」と話しました。

事例検討会では、援助者が家族の関係を理解するためのツール「渡辺式家族アセスメント／支援モデル」を使用して

グループワークを行い、援助の方向性や支援の具体策について検討しました。



研修会風景

豊橋創造大学開学30年

「地域に開かれた大学」として歩み、「地域の未来を創造する」

「起業家マインド」を理念に開学

豊橋創造大学は、1996年に、日本で初めて起業家マインドを理念に掲げて開学。大学名に付けられた「創造」は、教育目標に謳われ、「これからはアントレプレナーシップが重視される」と時代を読み、「自立心と責任感を持ち、自ら仕事を創造する人材の育成」を目標としました。その後、地域社会の状況を踏まえて経営情報学部から情報ビジネス学部へ改組。さらに経営学部に変更し、理学療法学科と看護学科をもつ保健医療学部を新設。2学部3学科となりました。

「Care&Idea」で新たな一歩を

時代や地域の声に応えながら、大学、大学院、短期大学部を有する大学として成長し、卒業生は15,000人を越えました。2021年からリブランディングに取り組み、2023年、タグライン「Care&Idea」を発表。「人をケアする精神」と「一人ひとりのアイデアと行動」に「向き合い、ともに進む」という姿勢を示しました。「Care&Idea」のもと、これまで以上に地域に開かれた大学、地域の未来を創造する大学として様々な教育研究活動に取り組んでいます。



ステートメントを展示したカフェテリア



地域で活躍する卒業生たち



①大学での学びで現在の仕事に活かしていること ②今後の展望 ③後輩へのメッセージ



2001年度卒
(経営情報学部
経営情報学科)
竹内稔晴 さん
株式会社丸金商会
常務取締役

豊橋で住む人々が 笑顔溢れる街に

①「コミュニケーションの大切さ」を学びました。ゼミでのグループワークディスカッションはもとより、授業の合間、昼休憩、授業後はサークル仲間とらの友人達と語り明かしたものです。人事としての採用活動や社内の部署と部署を繋ぐアジャスターとしての役割に活かしていると思います。

②豊橋で生まれ育ち、豊橋で学んだ私は、私の係る仕事でこの豊橋が笑顔溢れる街になるよう微力ながら盛り上げていけたらと思います。

③「基本はデジタル、最後はアナログ」です。メールやLINEで時短するのではなく対話や会話に時間を費やすことが深い信頼や安心感を生み、社会で成功する秘訣だと私は信じています。



2005年度卒
(経営情報学部
経営情報学科)
布村直人 さん
医療法人豊岡会
管理本部 人事部部長

信頼・安心・満足のある 質の高いサービスを提供

①大学での最大の学びは人との関わりです。学園祭での経験を通して、少ない人数でも一人ひとりが協力し合うことで、一つのことを成し遂げられたことが、今の仕事のやり方に繋がっています。また、人をまとめたり、人前で話をしたりする経験もこの大学で培うことができました。

②職員の教育や研修により力を入れて、信頼・安心・満足のある質の高いサービスを提供し、患者様・ご家族様から「選ばれる病院・介護施設」を目指していきます。

③失敗や上手くいかない時期もあるかもしれませんが、これからも様々なことに挑戦していきましょう。その経験が未来の自分を支えます。まずは一歩を踏み出してみましょう。



2009年度卒
(リハビリテーション学部
理学療法学科)
渡辺聖之 さん
モレメンテ株式会社
ディサービスエリア取締役

社会に貢献し続けられる 存在でありたい

①理学療法士としてのキャリアを築く上で欠かせない土台となりました。国家資格取得という一つの大きな目標に向かって、仲間と励まし合いながら過ごした時間は非常に意義深いものでした。人との繋がりの大切さは今も実感しています。

②半日型のデイサービスを1拠点運営していますが、来年には、一日型のデイサービスを開設する予定です。これまでの知識と経験を地域に還元し、社会に貢献し続けられる存在でありたいと考えています。

③「目の前の一つひとつに全力で取り組むこと」の大切さです。まずは真剣に向き合ってみてください。共に頑張りましょう。

創造同窓会主催

豊橋創造大学創立30周年・理学療法学科20周年祝賀会

2026年11月7日[土]

16:30～17:00 受付
17:00～17:30 特別講演
経営情報学科1期生 青木良太さん(陶芸家)
17:30～19:30 大学創立30周年祝賀会(懇親会)

会場／ホテルアークリッシュ豊橋4階宴会場 ザ・テラスルーム
愛知県豊橋市駅前大通1-55 Tel.0532-51-1111(代表)

会費／2,000円(事前申込制) 懇親会費込み

申し込み／案内ハガキまたは大学HP同窓会ページに記載のgoogleフォームより

問い合わせ／創造同窓会事務局 Tel.0532-54-9433 mail:sozodo@sozo.ac.jp

市民大学トラム

「明日への一步、自分を磨く4つの習慣」をテーマに
保健医療学部看護学科の教授たちが講演

「2026 年度市民大学トラム」は、「明日への一步、自分を磨く4つの習慣」をテーマに、高齢社会を自由に軽やかに送りたい人たちに向けて、保健医療学部看護学科の教授たちが講演しました。

毎回100人を越える受講者

6月13日は豊島由樹子教授の「血管年齢を若々しく!がんばり過ぎずに毎日続ける健康づくり」、20日は原沢優子教授の「からだのバランス能力を高めよう!あなたの『おととと』を数値化してしまおう」、7月4日は桂川純子教授の「こころのゆとりを自分でつくる〜ストレスと上手に付き合う

セルフケアの工夫」と題して開かれました。6月27日のトラムは、「『整える』から始めてみよう〜輝く未来をつくるウェルビーイング講座」を予定していましたが、台風接近による荒天のため中止になりました。各講座とも受講者が100人を越え、大変好評でした。



自分を磨く習慣を提案

豊島由樹子教授は、血管年齢に注目し、「生活習慣が動脈硬化を急速に進行させる最大の原因であり、自分で変えることができるのは生活習慣要因だけ」と解説。改善に向けた良い食習慣や運動を挙げ、自分の状況を継続して観察・記録・評価することの重要性を説き、「がんばり過ぎない健康づくり」を提案しました。



豊島由樹子教授

原沢優子教授は、「おととと」と体がふらつく動作を数値化して自分の転倒リスクを知ることの重要性を説明。受講者の一人にモデルとなってもらい、バランス能力の測定法を実践しました。併せてバランス能力を高めるための運動を紹介し、「暮らしの中に取り入れてほしい」と必要性を強調しました。



原沢優子教授

桂川純子教授は「ストレスとは自身の適応を越えて変化すること」と説明し、「人間には、ストレスからの回復力がある」と事例を紹介。ストレスと上手に付き合う方法を説き、「セルフケアの工夫を日々の生活の中に取り入れて健やかな生活を」と呼びかけました。



桂川純子教授

とよはし健康宣言事業 豊橋市保健所との連携事業

働き世代のためのカラダ喜ぶ健康講座

「働き盛りからの筋力維持」いつまでも自分の脚で歩くために
講師／保健医療学部理学療法学科長 八木幸一教授

働き世代を応援、 「健康経営」に取り込む企業も注目

カラダ喜ぶ健康講座は、本学と豊橋市保健所が連携して企画・実施している講座です。「健康経営」に取り組む企業や事業所、団体などを中心に、働き世代の人たちに向けて開催しています。今回は、理学療法学科の八木幸一学科長が「働き盛りからの筋力維持〜いつまでも自分の脚で歩くために〜」と題して講演しました。前半は、働き盛り層の運動不足に注目し、運動器の障害と予防について

説明。後半は、教室を移動して実践。参加者は、ロコモ度チェックや筋力維持や強化方法を体験しました。



講演する八木幸一学科長



前半は講義に聴き入る参加者



後半はロコモ度をチェック

地域の未来を創造する大学

豊橋市保健所連携 学生と食改さんによる SDGsワークショップと調理実習 「カレー」を題材に「サステナブルな未来」を考える!

短期大学部キャリアプランニング科と豊橋市保健所が協力し、「カレーから考えるサステナブルな未来」と題して、瀧崎ゼミの学生たちと、豊橋市の食生活改善推進員（食改さん）らが、6月と7月の2回にわたって社会課題の解決に挑みました。

6月

「食改さん」が学生たちとSDGsワークショップ「カレーの衝撃」に挑戦

「カレー」を題材にしたSDGsワークショップ「カレーの衝撃」を実施しました。「カレーの衝撃」は瀧崎ゼミが2022年から取り組んでいるワークショップで、大学祭のほか、学外のイベントなどにも出展し、地域住民を交えながら続けている活動です。

今回は、健康的な食生活を地域に広げるために活動する豊橋市の食生活改善推進員（食改さん）10人が参加し、学生たちと課題解決に臨みました。



オリジナルカレーを発表

参加者は4グループに分かれてアイデアを出し合い、「甘いやすらぎカレー」、「とよたんのとよたんカレー」、「夕方限定カレー日替わりカレー」、「わくわくカレー寿司」の4案を発表。参加者全員による投票で、SDGs目標の「つくる責任 つかう責任」を考え、食品ロス削減と廃棄食材の利用に重点を置いた「夕方限定カレー日替わりカレー」が優秀賞に選ばれました。



アイデアを出し合う

7月

調理実習でアイデアを実現 健全な食生活を実践できる 人を育てる取り組み

食改さんのスキルを上げる育成講座として、本学調理室で開かれました。食改さん11人と瀧崎ゼミの学生たち6人、市保健所職員ら合わせて約20人が参加しました。

6月に行ったSDGsワークショップ「カレーの衝撃」で提案された「社会課題を解決するオリジナルカレー」を、保健所の管



調理風景

理栄養士がレシピ化し、食改さんと学生による調理実習で再現しました。

メニュー名は「ワクワクカレー寿司」。カレーと寿司を組み合わせるという意外性を生かして調理し、盛り付けはその場でアイデアを出し合い、押し寿司風やミルフィーユ仕立て、カップ寿司などを完成させ



「できました!」

ました。
豊橋市保健所健康増進課の高木遥さんは「学生のフレキシブルな視点を取り入れて形にすることは、食改さんにとってはこれまでにないこと。自分の力を伸ばす機会になったと思う」と話し、成果を期待しました。

サーラグループ連携

看護学の視点を入れて「教える」「伝える」「体験する」

「SO GOOD LIFEフェア」 で防災体験講座

豊橋市白河町のサーラプラザ豊橋で、6月20日に開催された「SO GOOD LIFEフェア」に看護学科が協力し、「身近なもので『もしも』の手当て体験!」をテーマにセミナーを開きました。講師は、山口直己准教授と笹木りゅこ講師が務めました。

親子連れを中心に約20人が参加し、レジ袋を使った三角巾の作成やラップを利用した傷口の保護の仕方などを体験。



身近にあるもので手当を体験

ケガ人に見立てた人形を毛布で運ぶレスキュー搬送では、参加家族の子どもたちが協力して取り組みました。

会場には、災害用簡易テントを使ったトイレや、災害用簡易ベッドを展示し、もし



毛布でレスキュー搬送体験

ものの活用方法を紹介しました。

山口准教授は、「どこの家にもあるもので手当を体験してもらいました。もしもの時に思い出してもらえれば」と呼び掛けました。

地域を舞台に学び、 地域の未来を切り開く

短期大学部幼児教育・保育科1年生が活躍

和太鼓を通じて、地域の子どもたちと触れ合う「SOZOふれあいフェス」を開催しました！

短期大学部幼児教育・保育科1年生30人による学外イベント「SOZOふれあいフェス」が7月18日、地域連携協定を締結している豊川市白鳥町のイオンモール豊川のセントラルパークで開かれました。

演奏曲は、学生たちが創作した太鼓曲で、4グループに分かれて発表。学生たちはテーマを決めてリズムを構成し、音量や速さに工夫をこらした曲を演奏。会場には多くの家族連れが訪れ、笑顔で繰り広げられる息の合った演奏に大きな拍手が送られました。

その後、会場に訪れた子どもたちとの和太鼓体験が行われ、学生たちは、和太鼓を通じて子どもたちとの貴重な「ふれあい」を体験しました。

子どもの太鼓体験を目的に訪れたという家族は「昨年は小さくてできなかったが、今年はしっかり楽しめた。学生さんたちが優しく面倒見が良くて感心した」と話していました。

和太鼓演奏は、幼児教育・保育科の朝元尊教授の授業「表現学」の一環で、春学期の学びの成果として毎年、地域の人たちに披露しています。



子どもたちと和太鼓体験



創作和太鼓を披露

予告 11/1 イオンモール豊川 1Fサウスコートで 保健医療学部理学療法学科と看護学科、幼児教育・保育科の学生たちによる 「SOZOファミリー健康フェス」開催

毎年恒例の健康フェス。保健医療学部の学生たちが地域の人たちを対象に身体機能や運動能力に関する検査測定を実施します。教員による相談コーナーも好評です。このほか、幼児教育・保育科の学生たちが、未就学児を対象とした「健康に役立つやさしい手遊び」を実施。今年の健康フェスは、小さな子どもから大人まで、家族みんなで楽しめるイベントとなっています。

※同日開催される豊川市の「地域のささえあいフェスティバル」ともコラボ開催。イオンモール豊川内各所で開催されるイベントで、1日楽しくお過ごしください。



昨年の健康フェスの様子

経営学部経営学科の学生たちが「ストリームフェス2026」に出展

6月5・6日の2日間、東三河モノづくり博覧会会場内（豊橋市総合体育館）で開かれた体験型イベント「ストリームフェス2026」（豊橋ストリームフェス実行委員会主催）に、経営学部経営学科の今井正文教授や経営学科の学生たちがプログラミングのワークショップを行いました。

多くの子どもたちが訪れ、「自分だけのオリジナルの7色に光るLEDバッジ」をプログラミング。学生たちが見守る中、じっくりとパソコンに向かい、自分だけのLED

バッジを作りました。さらに、ペットボトル工作と組み合わせてテーブルライトに仕上げるなど、子どもたちの興味を引き出す魅力的な体験を提供しました。

ストリームフェスとは

子どもたちが科学・技術・ロボット技術・工学・芸術・数学といったSTREAM分野に触れ、楽しみながら学び、未来の可能性を広げていく体験型イベント。



今井正文教授



子どもにペットボトル工作を教えるゼミ生たち

Topics

学内で行われた表彰、贈呈式などをクローズアップ

学生たちが選んだ ベストティーチャー！

ベストティーチャー賞は、教育実践で優れた成果を挙げた教員を、学生からの投票などをもとに表彰する制度で、2020年から実施しています。2025年度のベストティーチャーに、授業で心掛けていることなどを伺いました。

保健医療学部看護学科

山口直己

准教授

主な科目
基礎看護学

初めて学ぶ学生の視点に寄り添い、理解が深まる教材選定や丁寧な解説を心がけています。一方通行の講義ではなく対話を重視し、学生がどのように考えたのか、その思考プロセスを肯定的に受け止めるようにしています。そこから私自身が新しい気づきを得ることも少なくありません。

失敗を恐れず自発的に考え、発言できる環境づくりをこれからも大切にしていきます。



経営学部経営学科

若原憲男

准教授

主な科目
会計学

安心して学べる環境づくりを大切に、実社会で役立つ「考える力」と「学び続ける力」を養ってほしいと考えています。気軽に質問や相談のできる雰囲気や学びへの意欲につながると考え、一人ひとりの理解度や反応に目を向けながら授業を進めています。資格取得や就職活動、大学院進学を含む将来の進路に関する相談にも応じ、学生が自らの可能性を広げ、成長していけるよう、学びや挑戦を支える存在でありたいと思っています。



幼児教育・保育科

朝元 尊

教授

主な科目
幼児と健康、表現学

実践的に動きながら学べるような授業を意識し、保育実習や教育実習と関連付けることで、「知っている」ことから「できること」として就職後に活かせるような授業を心掛けています。保育は、総合的な力と視野が必要な仕事です。そのことを念頭に学生と関わり、それぞれが得意とすることを伸ばしていけるように努めています。学生たちを親しく身近な存在として支え「主体的に学ぶ人として信頼する」という距離感も大切にしています。



キャリアプランニング科

伊藤圭一

教授

主な科目
基礎教養

過去を学び、現在を知り、未来が想像できる知識や考え方を提供しています。学生に身に付けて欲しい優先すべきテーマが目立つように授業を進め、学生の考えに共感を示すことも大切にしています。授業の始めには、学内で見かけたこと、興味を持ちそうな話をして距離感を詰め、質問への回答や提出物へのコメントを通じて距離感を良好に保てるように心がけています。新しい時代を創造する力を身に付けて欲しいと願っています。



東海交通と蒲郡信用金庫がSDGs私募債を利用して本学に書籍を寄贈

豊橋市に本社をおく東海交通から本学へ、専門書などの書籍（10万円相当）が寄贈されました。贈呈式で東海交通の青木良浩社長は「蒲郡信用金庫が発行している寄付型私募債・がましんSDGs私募債『愛郷のこころ』を利用し、ご縁のある豊橋創造大学に書籍を寄贈させていただいた」と経緯を説明され、「これを機に改めてご縁を深め、

ともに発展していきたい」とあいさつ。伊藤晴康学長は「私募債という仕組みは、本学の建学の精神にかなうもの。明日の人材育成に役立て、地域を盛り上げていきたい」と感謝の気持ちを伝えました。寄贈された書籍は、医学書から大型絵本まで53冊。本学図書館の新着コーナーで紹介しています。

豊橋創造大学附属図書館は、地域

貢献の一環として一般開放されています。詳しくは図書館利用案内をご確認ください。



30th
ANNIVERSARY
TOYOHASHI SOZO UNIVERSITY

豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科
保健医療学部 看護学科
経営学部 経営学科

豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科
キャリアプランニング科
公務員別科

豊橋創造大学大学院

健康科学研究科 健康科学専攻

